

音楽のおくりもの Information

Spire_M

小学校版
通巻第20号

学習指導案

「音階」「パターン」「ドローン」を使った音楽づくり
高知県香南市立野市東小学校 堀内 知佐乃

音楽×学び

子どもだからこそ、ワカルものがある！
…楽しさへの予感…「ケチャ」
福井大学 橋本 龍雄

目黒流貫井囃子保存会を訪ねて



教育出版

「音階」「パターン」「ドローン」を使った 音楽づくり

高知県香南市立野市東小学校 堀内 知佐乃

音楽科学習指導案

2010年2月26日(金) 第5校時

4年1組 男子8名 女子16名 計24名

指導者 堀内 知佐乃

1 ●題材名 音楽の仕組みをもとにして、つくって表現しよう

2 ●題材について

(1) 題材観

中学年の音楽づくりの活動では、音楽づくりのための発想を持ち、即興的に表現する能力、音を音楽に構成する能力を育てることが求められている。これまでに児童は、音楽ゲームなどで即興的な表現は経験しているため、今回は音を音楽に構成し、より構造的な音楽をつくることに挑戦させようと考えた。鑑賞や表現の活動を通して音楽のしくみや要素を感じ取らせ、それらを生かしながら思いや意図をもって音楽をつくることができるような能力を育てていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は音楽活動を好み、男女を問わず意欲的に取り組むことができている。またグループ学習などでも協力しあって活動に課題に向かっていくことができる学習集団である。しかし創作の学習経験は、既存の音楽に効果音的に音を加えたり、打楽器などで伴奏をつくったりする程度の経験しかないと思われるため、音楽づくりに対する児童の不安やとまどいがあると予想される。



(3) 指導観

本題材の目標である、音をまとまりのある音楽へと構成させるには、まず、音楽を特徴づけている様々な要素に気づかせることが大切である。これまでの歌唱や器楽の表現活動の際には、フレーズのまとまりや強弱、拍などを意識させながら指導してきた。そして児童は手拍子を使った音楽ゲームの活動などで、即興的に4拍のリズムをつくったり、リコーダーを使って簡単なふしをつくったりするなどの即興的な表現の活動を行ってきた。また4拍の自分で考えたリズムをもとに、班で8拍のリズムをつくり、おはやしをイメージしたメロディと合わせた音楽づくりの学習も経験してきている。

本題材では、始めに「メロディ」「パターン」「ドローン」「フィラー」の構造的な4つのパートの役割を理解させる。そして音楽づくりや鑑賞の活動を通して得たアイデアを生かしながら、音楽づくりができるように各時の学習活動を工夫したいと考えている。音楽をつくる活動にあたっては、つくることと聴くこととを関わせることで、自分たちの音楽を練り上げるとともに、音楽の仕組みに気をつけて聴くことができるようにしたい。

またそれぞれの考えた音を音楽へと構成する過程には様々なつまづきが予想される。慣れない楽器での演奏にもとまどいがあるだろう。それらの課題に寄り添い、手だてを講じていきながら、子どもたちに音楽づくりの活動を楽しんでもらいたいと考えている。

3●題材の目標

- ・「メロディ」「パターン」「ドローン」などの音楽の構造を理解することができる。
- ・リズムや旋律の重なり、曲の構成を工夫してまとまりのある音楽をつくることができる。
- ・音楽の仕組みに気をつけながら聴くことができる。

4●共通事項との関連 ア（イ）「音楽の仕組み」…「反復」「問いと答え」「音楽の縦と横の関係」

本題材の学習のポイントは、「音楽の仕組み」を理解することである。「パターン」「ドローン」は反復により、楽曲を支える役割を果たしていることや、「メロディ」も反復によってまとまりが生まれることを児童は音楽づくりの活動を通して学ぶことができると考えている。

構成を考える際のアイデアとして、「問いと答え」「合いの手」に触れ、鑑賞などを通してその仕組みを理解し、活用させたい。また楽譜がわりの図を使って「音楽の縦と横の関係」へも注目させたいと考えている。

5●題材について

- ドリア調 教会旋法のひとつ。「レミファソラシドレ」の音階でできており、レが終止音。ラが副次終止音。＃や♭を用いない音階であるため、リコーダーや鍵盤での演奏が容易になる。
- ドローン 伴奏となる低音
- パターン 短いパターンの繰り返し。中心となる音。
- メロディ 旋律。自由なふし。パターンに対立したり共鳴したりする。
- フィラー 合いの手。装飾的な高音。かざりの音。

6 ● 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	いろいろな楽器の組み合わせを楽しみ、グループによる音楽づくりに自ら取り組み、もうとしている。	音楽の構造を理解し、まとまりのある音楽をつくろうと意図をもって工夫している。	リズムや旋律の重なり、曲の構成を生かして、音楽をつくっている。	音楽を形づくっている要素や音楽の構造に気をつけながら、聴くことができている。

7 ● 指導と評価の計画（全6時間）

時数	学習内容・ねらい	評 価				
		ア	イ	ウ	エ	評価方法
1	・ ドローンなどの曲を形づくる要素を聴き取る。				◎	ワークシート
2	・ 意欲的に音を選んだり、楽器を選んだりすることができる。 ・ 「レミファソラシドレ」の音を使って短いふしやパターンをつくる。	○			◎	活動の様子の観察 ワークシート (7ページ参照)
3・4	・ それぞれのパートの重なり方を工夫しながら、音楽づくりに取り組む。	○	◎			活動の様子の観察
5 (本時)	・ 各パートの重なり方や始まり方、終わり方を工夫し、まとまりのある音楽に仕上げる。		◎	○		活動の様子の観察 発言の聴取
6	・ 友達の作品やCDを鑑賞して、その仕組みや表現の工夫を感じ取る。				◎	ワークシート 発言の聴取

7 ● 本時の指導

(1) 目標

- ・ 友達と協力して、各パートの重なり方や始まり方、終わり方を工夫することができる。

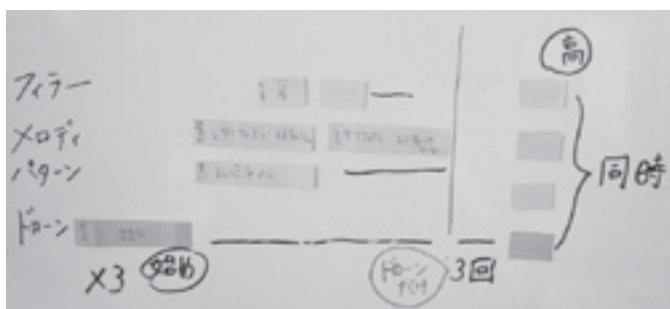
(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価（方法）
	1. 音楽ゲームをする。 2. 今日の学習内容について知る。	○速度や強弱など音楽の要素に関わった内容にする。	
	音楽の始め方と終わり方を工夫しよう		
5	3. いくつかの曲の終わりの部分を聴く。 ・だんだん大きくなって終わる ・消えるように終わる ・速くなって終わる ・ビシッと終わる など	○曲の終わり方の工夫をとらえさせ、話し合う。	
	4. 自分たちの音楽の始めと終わりの部分を工夫する。	○始め方の工夫についても話し合う。	
20	5. どんな工夫をしたか発表する。	○各グループでつまづいている点をチェックする。 ○個々の発言や取り組み方を見とるようにし、評価に生かす。	◎グループで話し合い、重なり方や始まり方、終わりが工夫できているか。 (活動の様子の観察)
10	6. 今日の活動をふり返る。	○途中でであっても、いくつかのグループを発表させ、各グループの意図したアイディアについて話し合わせる。 ○ワークシートでグループの活動をふり返らせる。	
5			

(3) 準備物

マリンバ、ヴァイブラフォン、グロッケン、図譜（ホワイトボード、付箋紙）
 ふりかえりカード など

◆譜例1 2班の図譜



まずドローンの「ララレー」というパターンを3回演奏したら、メロディの「レラソファミレ レミファミレ」とパターンの「レレレミファミレ」、そしてフィラーの「ソラ」が入る。そしてメロディーが2回繰り返したときに、またドローンのソロになり、最後は全パートがそろって同じ音で終わるという構成となっている。

このようにホワイトボードを使用し、視覚的に音楽の構造をとらえることで、子どもたちは構造的な作品に仕上げることができたといえる。

始めは即興的なアンサンブルであったのが、友達の演奏や鑑賞した曲の良さを聴き取り、自分たちの音楽を構造的にまとめることができた例である。即興的な演奏とは、離れてしまう面があるが、このような楽譜を使った音楽づくりは、子どもたちが音楽の縦と横を考えるきっかけになる学習であったと思う。

◆譜例2 5班の図譜



5班も2班と同様、それぞれのパートが入るタイミングを付箋紙で表している。

間に空白があり、その後、2つのパートに分かれるアイデアを生かしながら、終わりの部分を工夫していた。



授業のまとめとして
3月に行った発表会の様子



音楽づくりにちょうせん 〜ドリフアゲでの音楽づくりに〜

()組

メンバー ()

1. 楽器やたんとする人を決めよう。

役わり	えらんだ器	楽 器	たんと
ドラムン (リズム)			
パターン (くり返し)			
メロディ (ふし)			
ソロー (音の序)			

2. 気をつけたいこと グループでのやりそくを決めよう。

名前

第2時で使用した
ワークシート



音楽 × 学 び

子どもだからこそ、ワカルものがある！
 ……楽しさへの予感……「ケチャ」

福井大学
 橋本 龍雄



Webの「サイトミュージックヤフー店」で、拙著「ケチャ・パーティー」が、8月6日調べで人気ランキング1位になった。このタイトル作品は、私が小学校の新任だった33年前に出会った、たくさん子どもたちがいてくれたからこそ教材になり、今日まで授業の場で実践されてきた作品である。この本には「ケチャ・パーティー」関連で、「レッツゴー・パーティー」、『ケチャ』のリズム」が掲載されており、これらの元は、インドネシア・バリ島の民族芸能の「ケチャ」（以降、ケチャと記す）である。



ケチャと出会い、授業でケチャの実践を始めたことから起こった、ドラマのような様々な出来事を通して、私が知った子どもの感覚、子どもの論理、子どもの世界を紹介したい。そして、「授業は、子どものためにあり、子どもから学ぶ以外に道はなし」。先輩から教わったこの言葉を、今一度ゆっくり考えてみたいと思う。

今も昔も変わらぬモノは…

私が新任だった1977年頃、ケチャ^(注1)は民族音楽に興味を持つ人以外、学校教育ではほとんど知られていなかった。当時、学校現場の音楽授業で最も注目し、最も実践で力を入れていたことは、ヨーロッパの芸術音楽とその響きであった。例えば歌唱では、当時「頭声的な発声」と呼んだ発声が美しい声であり正しい発声で、その声でつくり出す合唱が学校教育でめざす合唱であったので、ケチャの発声どころか、ケチャそのものが「論外」なのであった。今では小・中・高の教科書に、ふつうに掲載されているケチャであるが、学校現場での取り扱いが、30数年の間に、論外・拒否から受容（鑑賞・体験）へ、いわばNOからYESへと変化した教材というのもめずらしい。しかし、昔も今も変わらないものがある。

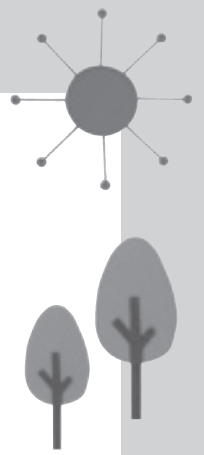
子どもの「おもしろいものを直感的にワカル感覚」である。

子どもはそれがおもしろいとワカルと、とてつもなく積極的になる。私が「このぐらいにしておこう」と言っても、自分なりに納得するまでやめようとしないうち。授業時間が終わっているからと、こちらの理屈で説得しようとする、次の授業では何分間やらせてくれるか。活動時間の交渉をする子ども。

もっともっとやりたいという子どもの意欲を、私はどれだけ延ばし、どこまで深めることが出来たのだろうか。ノウハウや思いつきでは、決して対応できないことがあることを、新卒の私はこの時初めて知ったのである。

空気が変わる子どものすごさ

子どものすごさに会おう発端は、小泉文夫（当時東京芸大助教授）構成・



監修の6枚組LPレコード（非売品，プリンスレコード発行）を聴いたことがきっかけである。その中の3分5秒の演奏に私は天地がひっくり返るような衝撃を受けた。それがケチャだった。ケチャの資料や公演を探しては体験し、「すごい」と自分一人で感激していた。新卒の私は、子どもにもあの衝撃と感激を経験させてやりたいと思うようになり、2学期実践を始めたのだった。

授業が進むにつれて、子どもの様子が変わってきた。これまでの授業で積極的に活動していた子がおとなしくなり、これまで「歌きらい」「がくふ読めん」「音楽辛気くさい」などとぼやいていた子どもが、がぜん積極的になってきたのである。そして、「もっと大きい声で言わんと（ケチャの音楽に）ノレンやろ」と、リーダーシップを発揮するようになり、教室のどの子も活気づいてきたのである。

授業の空気はこれまでとは全くちがう。授業に笑いがある。教室が和やかな空気で満たされたと思うと、スーッと空気が静かになり、ケチャの演奏がスタンバイされる。演奏が始まり緊張感が出てくる。誰かがまちがえると大きな笑いが起きる。まちがえたことで生じた意外性のある演奏に対する「楽しい笑い」なのである。まちがえた子ども自身も楽しく笑える「笑い」がある授業。そんな音楽の授業があることを考えたこともなかった。

授業中止勧告

授業は和やかで、演奏に緊張感とノリがあり、笑いがあった…。ある日、校長・教頭両先生が参観に来られ、授業を中止するよう勧告を受けた。ケチャが問題だったのである。30年前の当時、教科書にも歌の曲集にも載ってない、テレビやラジオにも流れていない、どう聞いても子どもが集団で叫んでいるようなものを、合唱だ？音楽を演奏している？とはとうてい思えなかったのも仕方ないことであろう。子どもはノリに乗っていた。これが「子どもが生き生きしている」ということだと私は思った。しかし一人一人の子どものそんな姿を見ても、ケチャはダメなのである。中止勧告を聞き入れない私は、翌日校長と共に教育委員会へ出頭向くことになり、そこでも「ふつうの音楽をする」ことを求められたのである。

怒る子ども、親を動かす

帰校後、子どもはどこへいったのかと私に尋ねた。私は叱られてきた、ケチャができなくなった、とそのまま子どもに答えた。あんなおもしろいものがなぜアカンのか？

授業おもしろかったのに…。子どもは本気で私に怒っていた。なぜケチャができない？子どものブーイングは、予想もしないかたちで結実した。

翌日、呼ばれて校長室に入ると、PTA会長が同席されていた。会長の話では、音楽の授業がおもしろい、きらいだと言っていた子どもの親から、昨夜、何件も電話がかかってきたそうだ。普段、学校の話すらしない子が、音楽の授業のことをよく話し、しかもおもしろいという。その子がケチャをもっとしたい、なぜやってはいけないのか、音楽が楽しいのに、と親にばやくのだから、よっぽどのことだと思い、会長から学校の事情を聞いてもらおうと電話をしたということだった。

子どもの声が保護者を動かし、会長や校長の気持ちを動かしたのである。子どものおかげで、私はその日からケチャを続けることができるようになった。

楽しさへの予感

そんな出来事があってから22年間、毎年授業でケチャに取り組み、毎年子どもの活動を通して新しい発見があった。子どもが持っている未知のものへの興味と関心の強さや、子ども一人一人が生み出す演奏の場の緊張感というかパワーというか、あるいは子どもがいる教室の空気の濃さと色合いのようなものが、毎回ちがうのである。「子どもが演奏を楽しんでいる」と、掛け値なしに実感できるのである。

人が「音楽する楽しみ」みたいなものを、子どもは一瞬のうちにケチャから感じ取っているのではないかと思う。子ども自身のそれまでの生活経験をもとに、これまで経験したことがないような音楽表現ができると、子どもだからこそワカルのではないか。その表現の多様な価値を、その子なりに見つけられる予感があるのだと思う。

これに子どもがハマった!

子どもはケチャからどのようなおもしろさを感じたのだろうか。

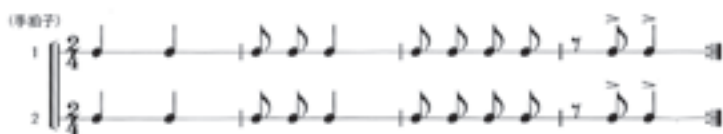
まず第1は、その「声」である。チャッ・チャッ・チャッ…と猿の集団が叫んでいるような「声」そのものがおもしろかった。音楽では聴いたことがない声で、誰にでも自分でもできそうな、叫べばよいだけの「声」だったから興味が湧いたのだと思う。歌うのではなく、叫ぶからいい。安心して叫べるのである。

第2は、「くり返し」である。声に強弱はあるが、ずっと同じように、叫び声をくり返していることがおもしろかった。くり返しそのものがおもしろい。また簡単だ。間違いを心配することもない。安心だ。そう感じたからこそおもしろいのである。

第3は、「みんなでする」おもしろさである。自分一人では決してできないことがケチャにある。多くの人が集まってこそできる声があった。「みんなでする」からこそおもしろいのである。

第4は、ケチャの「音響」である。ケチャの音楽の仕組みは、インターロッキング^(注2)であり、子どもはその音楽の仕組みが作り出す音響のおもしろさを直感的に感じ、練習するにつれて、ますますそのとりこになっていったのである。以下その楽譜と子どもの様子を記す。楽譜1～楽譜3の音楽の仕組みは、インターロッキングである。

◆楽譜1



私はこの楽譜1のリズムを「レッツゴー・リズム」と呼んでいるが、①このリズムを手拍子で何度もくり返して演奏する。②4～5のグループに分かれ、各々のグループが順に1拍ずつ遅れてこのリズムを手拍子で演奏する。③全体の音響は、八分音符が連続しているように聞こえる。

子どもは、③の時におもしろさを感じた。自分が手拍子を打つリズムと、聞こえてくる

八分音符の連続の音響のズレや違いに戸惑い、「わけが分からなくなるような」、「頭の中がぐちゃぐちゃになったような」感覚に陥る。子どもは、初めて経験する「頭の中のぐちゃぐちゃ感」がおもしろいのである。そして何度も続けて行くと、次第にその音響が心地よくなっていく。その心地よさも初体験で、同時に自分のからだは上下に動いていることに気づく。音楽にノッテル状態である。ほとんどの子どもはこれにハマってしまった。

◆楽譜 2



◆楽譜 3

最初は4つのグループに分かれて、「ケチャ・パーティー」のリズムアンサンブル（Cパート）を練習します。チャということばをきりよく発音しましょう。



（Cの演奏の仕方）①～④のパートに分かれて、1回めの「チャ」以後リピートすることに「ト」「ジョ」「チャ」と発音を交える。

どんなときも、子どもの方を

ケチャとの出会いは、とても大きな出来事だった。新任当時、私を助けてくれたあの子どもたちは、今44歳。当時のどんなことを憶えているだろうか。

当時私が行った実践は、ケチャという「音楽そのもの」の体験だった。

世界の音楽は宗教や舞踏、遊び、商業活動など、音楽そのもの以外の要素と関わり、深く結びついている音楽が大多数を占めている。ケチャも例外ではない。その音楽が存在するための様々な要素を含んだ「文化としての音楽の理解」が、「音楽そのものの理解」と同時に必要だと今強く思う。

「学校で音楽の何を教えるのか」。「音楽で教えるものは何か」。探し続けるためには、いつも子どもを見続けなければいけないと思う。

私は、どんなときも子どもの方を見続けたいと思う。

「授業は、子どものためにあり、子どもから学ぶ以外に道はなし」。

（注1）ケチャ：日本におけるケチャの認知…1970年頃、小泉文夫が日本に初めてケチャを紹介した。1974年には、芸能山城組の山城祥二（大橋 力）が、バリ島の人以外によるケチャの完全上演を初めて行った。以来、芸能山城組による新宿でのケチャ祭りをはじめ、レコードやラジオ等によってケチャが紹介されるようになった。また、「ケチャ」という呼称は、1970年当時、現地で一般的に使用されていた「KECAK」を起源とし、小泉文夫の命名による日本での呼称で、日本では現在も「ケチャ」で流通している。バリでは「CAK（チャ）」が正式呼称。

（注2）インターロッキング：「かみ合せ」という意味。音楽では「入れ子のリズム」とも呼ばれ、あるリズムの打音の合間に別のリズムの打音が入り込んで、全体として不思議な、複雑なリズムに聞こえる。ラテン音楽のリズム（ビギン、サンバ等）の仕組みもその一つ。

楽譜1～3は「ケチャ・パーティー」（教育出版）より引用

目黒流 貫井囃子保存会 を訪ねて

地域に根づいた
“我が国の伝統文化”を継承する
「貫井囃子保存会」取材しました。



貫井囃子保存会について

貫井囃子^{ぬくい ばやし}は、江戸時代末期（天保年間）に当時地元で花火職人をしていた鈴木三郎衛門ほか数名の者が、現在の世田谷区千歳船橋から習い覚え、地元貫井神社の祭礼の奉納したのが始まりとされています。戦後一時途絶えてしまいましたが、昭和45年に、前会長の故大澤敏夫氏を中心に地元の青年数名が復活をさせ、保存会が結成され現在にいたっています。

現在、約40名の会員によって週3回の練習を続けているほか、関東を中心に全国各地において保存活動を行なっています。

また、東日本および全関東祭ばやしコンクールで優勝し、東京都祭ばやしコンクールでは第1回から連続15回の最優秀賞を受賞しています。

その他、CDへの収録や民族音楽の観点から学術研究の対象として注目され海外での出演や、高等学校の音楽の教科書に掲載されるなど、幅広い分野で活躍しています。（一部ホームページより引用）

現在は二代目会長、大澤国栄氏が後任となり、今年40周年を迎えられる貫井囃子保存会は、さらなる飛躍を続けています。

※囃子とは神社の祭礼に山車^{だし}や屋台の上で演奏される音楽のことで、日本全国で行なわれる我が国の伝統芸能のひとつ。

貫井囃子保存会公式ホームページ：<http://www.nukui-hayashi.com/>



二代目会長大澤国栄氏

山車の紹介

普段はなかなか見ることのできない倉庫に大切に保管されている山車を見せていただくことができました。

収納状態の山車は提灯^{ちようちん}などが取り外されているが、重量感に満ちた力強い姿には圧倒される。と同時にこの倉庫が非常に神聖な場所に感じられた。祭り際にはこの山車に高張り提灯（写真参照）が取り付けられゴージャスに装飾される。そして夜になれば明かりが灯され、いっそう神々しさが増すわけだ。

また、お囃子が演奏するスペースは3畳強で、この非常に狭く限られたスペースで演じられる。注目すべきことのひとつとして、貫井の山車は、都内では非常にめずらしく、回り舞台となっていることだ。（360°回転する）

この高さや重量のある山車を街中で操作するにはかなりの技術が必要とする。

街中を移動するには、電線や電信柱などの障害物を避けながら動かさなければならないのだ。アクシデントが起きないように、毎回が命がけだそうだ。

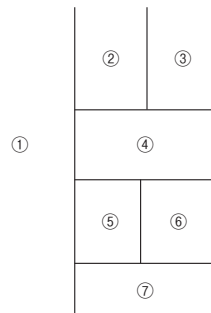
一方、これだけ立派な山車の修理，メンテナンスなどが気になるところであるが，それらに関しては，青梅在住の熟練された専門職人に託しているとのこと。車輪（写真参照）一つ製作するには，高級車一台購入できるほど高価であるらしい。驚きである。もちろんすべてが手作りで，綿密な作業によって完成される。

伝統を維持するのには，費用の面においても膨大な金額がかっているようである。

※山車とは祭りの際に引いて練り歩く屋台のこと。



- ①倉庫に格納された山車。
- ②山車の正面右側には荒々しい顔立ちをして山車を守護する風神が祭られている。
- ③山車の正面左側に位置する雷神は太鼓を負い手に撥を持って山車を守護している。
- ④昼夜で使われる高張り提灯
- ⑤山車を支える巨大な車輪。
- ⑥山車の側面に装飾された家紋。
- ⑦カブトムシの角のような形をした舵棒で山車の舵をとる。



稽古について

1. まず，入会してすぐにやること→踊る（仁羽の踊り）ことによってリズムを体感する。
2. 次に「仁羽」のリズム「テン テテツク〜」を，お経のようにひたすら覚える。
いろいろな楽器が重なりあってくると「テン テテツク〜」に自然とアクセントがつくことによりリズムに躍動感が生まれる。
3. リズムの習得には，便宜上巻物（リズム譜）を使用するが，次第にリズムが身体に浸透してきたらリズム譜から離れる。
4. 下記に書かれた譜は，「仁羽」という曲のリズムを，唱歌としてマス目状に表したものの。（篠笛を除く）

●つけ太鼓

右	天	テ	ツ		テ	ク		ツ	ツ	
左			テ	ク	ス	ツ	天	ク		

●鉦

右	チャ	チャ	チャ	チ	チ	チャ	チ	チ	
左	ヤン	ヤン	ヤン		キ		ヤン		キ

●大胴

右	(天)	(テ)	ドン		(天)	(テ)			ドン	
左			(テ)			ドン	(天)		ドン	

※（ ）は他のパートを表す。

※仁羽という曲は，親しみやすいひょっとこやおかめが登場しテンポよく踊ります。

五人囃子について

山車の上の屋台で演奏される五人囃子の楽器編成は、つけ太鼓2、大胴1、鉦1、篠笛^{しのぶえ}1からなる。五人囃子は3畳くらいの屋台のスペースで演奏され、さらに踊りが加わる。

◎五人囃子で大切なこと

五人囃子は5人でひとつのセッションとなるのでチームワークが重要。

お互いの音を聴きあうことによって、自分自身が一步前にでるところ、また一步下がる場所を感じる。主役⇄脇役

また、いかにしてそれぞれの個性を出し合うかがポイントとなる。

これらのコミュニケーションが、それぞれ人間関係につながっていくという。

お囃子を勉強するにあたって、日頃から民謡、演歌、ジャズ、クラシックなど様々なジャンルを聴き、色々なエッセンスを吸収するように心掛けることも非常に大切である。

今日の練習

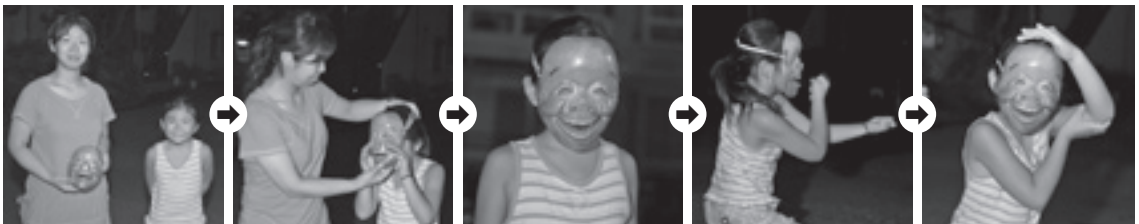
【野外での踊りの練習風景】

まず、CDラジカセからの音源を聴きながら踊りの練習が始まった。

今日は、面をかぶっての練習だ。

お囃子のリズムに合わせてみんな真剣に練習が行なわれた。

▶みんなで練習前の挨拶「よろしくお願いします！」。



「これからお面をかぶりま〜す」

「頭の後ろゴムをひっかけて…」

「はい、ポーズ！」

「よっし気合いだ！」

「えへへ！」

【室内でのお囃子の練習】

次に場所を移動して室内で、楽器を使ってお囃子の練習

6畳ほどのスペースで練習が繰り広げられるため、熱気に溢れている。



▶実際に楽器を演奏する前は、車のタイヤを利用して練習する。



⑦左奥から順に立って演奏する鉦1、篠笛1、そして、左手前から座って演奏する大胴、つけ太鼓。つけ太鼓は二人一組で演奏する。

⑧篠笛 ⑨鉦 ⑩つけ太鼓 ⑪大胴

⑫お囃子に踊りが加わるといっそう躍動感が増す。

会長挨拶

最後に、これからの貫井囃子について会長にインタビューをしました

貫井囃子保存会への入会のきっかけは、どこかでたまたま貫井囃子を見学した方々が入会するケースが多いので、メンバーは小金井在住だけでなく他の地域からも参加している。

つまり全く知らないもの同士が、縁あって仲間になっていくわけだ。

正直、稽古は厳しい。しかしながら、いくら叱られても“みんなの目的は一緒”なのでそれに向かって頑張ることができる！

現代の世の中で欠けつつある“仲間意識”“上下関係”を大切にしている。

お囃子は個人プレイではなく5人一組なので、チームワークが何より大切だ。

少人数ではあるが、5人の仲間一人ひとりの音（気持ち）がそろってはじめて一歩前進できる。気持ちをひとつのしなければ、決して良い演奏は生まれない。



今後の貫井囃子であるが、伝統をそのまま継承するわけではなく、時代に合わせて少しずつ新しい部分を取り入れることも大切であると考えている。

先人からの教えを継承しつつ、今風のものも取り入れ、少しでも多くの方々に興味をもっていただきたいからである。いくら素晴らしい伝統であっても、伝統ばかりを全面に押し付けてしまうと聴き手側も興味を示さない。最終的には伝統がとどえてしまうことにも成りかねない。いかに聴衆をひきつけるかも伝統を継承していくうえで大切な要素のひとつだと思う。

それには日頃から色々なことにアンテナを張りめぐらせていなければならない。

子供たちにとって楽しい娯楽はいっぱいあるが、それにも負けないくらい魅力ある貫井囃子保存会にしていきたいと心から願っている。

今の世の中、親にも叱られたことのない子どもたちもたくさんいる。

指導は、優しくすぎても、厳しすぎてもNG！これまたなかなか難しい。

現状としては、入会者が10人いても最終的に残る人間は一人か、二人いればいい方ではないだろうか？

これからも、焦ることなく、少しずつ人間同士の大切な絆をつくり輪を広げていきたいと思っている。

貫井囃子について

今日の練習を終えて生徒のみなさんにインタビューをしました

お客さまみんなと一体になって
共感し合いながら
演奏できることが嬉しい。

辛いことや叱られることもたくさんあるけど、
頑張った分だけ会長さんに
評価してもらえるのが、魅力的。

芸を身につけることは
苦しいけれど、
身についたときや
みんなに観てもらえるのが
嬉しい。

普段からインターネットを
利用して、
いろいろなお囃子曲を
研究している。

お客さんと自分たちが
ひとつになって
踊れることがうれしい。



注意されることが
たくさんあるけれど、
少しずつ良くなって
いくことがいい。



Q&A でポイントがひと目でわかる！ 授業の展開例をいち早く紹介！

小学校 学習指導要領の 解説と展開 全14巻

— Q&A と授業改善のポイント・展開例 —



- 監修：安彦忠彦
- 定価：各 1,680 円（本体 1,600 円＋税）
- 各 A5 判／平均 184 ページ

ラインナップ

総則編／国語編／社会編／算数編／理科編／生活編
／音楽編／図画工作編／家庭編／体育編／道徳編／
外国語活動編／総合的な学習編／特別活動編

<シリーズの特色>

- 学習指導要領の改訂のポイントを、Q&Aでわかりやすく解説！
- 新学習指導要領に基づく指導計画の作成例・授業の展開例をいち早く紹介！
- 「確かな学力」「習得・活用・探究」「言語活動の充実」など、今次改訂のキーポイントについて解説するとともに、授業改善の手だてを具体的に提示！
- 新設の「外国語活動」の具体的な展開について、「外国語活動編」で詳説！
- ベテランの教師にも、新任の教師にも必読の書。また学校・教育委員会等に必備の書！



教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10
TEL 03(3238)6965 FAX 03(3238)6999

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

小学音楽通信 Spire_M〔2010年 秋号〕 2010年 10月 1日 発行

表紙写真：©草風 藍 / 貫井曜子保存会

編集：教育出版株式会社編集局 発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
印刷：大日本印刷株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 電話 03-3238-6864（お問い合わせ）
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL：011-231-3445 FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL：0138-51-0886 FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022-227-0391 FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL：052-262-0821 FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL：06-6261-9221 FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手ビル 5F TEL：082-249-6033 FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL：089-943-7193 FAX：089-943-7134
九州支社	〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F TEL：092-781-2861 FAX：092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL：098-859-1411 FAX：098-859-1411